

【第 100 回対策本部会議】 9 月 7 日

健康福祉部長／感染者数は、1 日の 82 件から上下を繰り返し、本日は 28 件。数字は、日によって変動がある。月曜日は、前日が医療機関の休診という影響を受けるので少ない。そのため、感染者数の傾向を見るときは、前週の同じ曜日と比較している。

7 月 27 日から、8 月 23 日までの 4 週間は、連続して前週の感染者数を上回った。8 月 24 日から下がり始め、今日までの 15 日間は減少傾向にある。

本日の入院患者は 185 人、病床使用率が 42.6%。うち、重症者が 2 人、重症者の使用率は 4.2%。ホテル療養は 195 人、使用率は 39.4%。自宅療養者は 100 人。

減少傾向にあるが、一人ひとりが感染リスクの高い行動を避け、基本的な感染予防対策を徹底する必要がある。

知事／今日は 100 回目の対策本部会議。これまでを振り返ってみたい。

佐賀県新型コロナウイルス感染症対策本部（第 1 回～100 回）

第 1 回目の対策本部会議は、県内初の感染者を確認した今年の 3 月 13 日から始まった。4 月早々に「プロジェクト M」を始動し、病床確保に務めた。赤い棒グラフは陽性者数で、青い折れ線は病床使用率。

去年の 4 月 16 日から 5 月 14 日に、全国に緊急事態宣言が発令され、学校が一斉休校となった。このときに病床が一番ひっ迫し、28/35 床が埋まり、病床使用率が 80%になった。現在の病床確保数は 434 床。当時、いかに少なかったかがわかる。医療関係者の皆さんの協力のもと、「プロジェクト M」で広げてきた歴史がある。

5 月から 6 月は、高校総体や高校野球の佐賀予選ができなかった。そこで、全国に先駆け、SSP 杯という代替大会を開催すると決めた時期。6 月は、全く陽性者が出ていなかった。この頃は対策本部会議も開かれず、C 室（疫学調査チーム）も職員が 1 人いるかどうかという時期だった。

7 月になり、第 2 波が始まった。この頃の病床使用数は 62/281 床、使用率は 22.1%。

9 月、10 月は感染者がほとんどなく、「さいこうフェス」や「伝統芸能祭」なども実施した。

その後、年末年始を境に急激に増え始め、病床使用率も上がってきたのが第 3 波。このとき、初めて県独自の「医療環境を守るための非常警戒措置」を発表し、病床使用率は減少に転じた。

ゴールデンウィークに第 4 波がきた。カラオケ喫茶の利用で高齢者の陽性者が増加したことを受け、高齢者を中心にカラオケ喫茶を控えるように呼び掛けるとともに、2 回目の「医療環境を守るための非常警戒措置」を発表した。このときの病床使用数 189/365 床、使用率は 51.8%。オール佐賀・チーム佐賀で取り組み、数字が下がり、非常警戒措置は解除できた。

8月の第5波は、それまでと比べものにならない感染者数になった。病床使用数は249／380床、使用率は、65.5%にもなった。そこで、3回目の「医療環境を守るための非常警戒措置」を発出した。さらに、旧唐津市にはまん延防止等重点措置という国の措置が初めて入った。

この1年半、医療従事者を始め、介護、保健、教育、福祉の現場の皆さん、保健所、県職員、市町の職員の皆さんにご苦勞をおかけした。試行錯誤しながらの取り組みになったが、これから先、必ず生きてくるはず。改めて、81万県民の皆さまに感謝申し上げます。

今後も力を合わせ、エールを送り合いながら取り組むことが大切だと確信している。3回の非常警戒措置が、県庁と県民の連携で、すべて成功したことが何よりも喜ばしい。だからこそ、メリハリをつけた対策をしなければならない。解除するときには解除を決断し、次に備えることがコロナ対策には大事だと、100回の対策本部会議を経て感じている。

保健所管内ごとの新規感染者数の推移をみると、唐津管内は、まん延防止等重点措置後、急激に感染者数が減少している。この急下降は、ほかではなかなか見られない。唐津の皆さんが、一致団結したおかげ。心から敬意を表したい。

唐津市の感染者数は、一時東京都を超えた時期があったが、現在は佐賀県全体と同程度まで戻ってきた。そこで、まん延防止等重点措置は、12日で解除してもらうよう国に要請する。

また、佐賀県の人口10万人当たりの感染者数は、48.59人で全国22番目。九州各県も減少傾向にある。この状況に特段の変化がなければ、県独自の非常警戒措置も12日で解除し、飲食店の時短営業は12日までとする。

佐賀県は、エールを送り合う慈しみの県。お互いを励まし合いながら、コロナ対策を進めていきたい。これからも、現場の皆さんとともに歩んでいきたい。